

音楽ホールを仙台に!

2000人が響き合う



“ひろば”としての音楽ホールを!

みんなが描くホール像 <1260人の声とおもい>

楽都・仙台に復興祈念『2000席規模の音楽ホール』を! 市民会議

兵庫県立芸術文化センター 芸術監督・指揮者

佐渡 裕氏 メッセージ



2011年の東日本大震災では、とても大きなショックを受けました。こんな時に「音楽は何の役に立つのだろう」と大変悩みましたが、震災直後、ドイツのオーケストラからの依頼により、デュッセルドルフのコンサートで日本の被災地のために「第九」を指揮したことが、「音楽を通じて勇気、希望、力を届けていこう」と一歩前に踏み出す勇気を与えてくれました。

その年の夏から毎年、東北の各地を訪れ、子どもたちで構成する「スーパーキッズ・オーケストラ」の演奏活動を続けています。「やっぱり音楽は楽しい」「やっと涙を流すことができた」との言葉を聞くと、音楽には復興に向けたエネルギーを生み出す力があることを改めて感じます。そのような思いを音楽の力による復興に向けたシンポジウムやイベントでビデオメッセージを届けてきました。

僕が芸術監督を務める「兵庫県立芸術文化センター」は、1995年1月の「阪神・淡路大震災」からの復興のシンボルとして2005年にオープンしました。年間50万人の方が公演に訪れ、2017年には入場者が600万人にも達しました。僕がこの劇場でめざしたのは、訪れる方が音楽をはじめとした舞台芸術を楽しみ、元気になって帰っていく。また行きたくなる、地域に暮らす人々の「心の広場」です。今では、公演に訪れる方だけではなく、地域の皆さんとの様々なイベントも定番となり、にぎわいのある元気な地域になっています。

音楽は、聴く人の心にも、それを演奏する人の心にも癒しや励ましを与えてくれます。また、与えることによって逆に慰められ励まされることを兵庫はもとより東北、そして国内外での演奏活動でも実感しています。違う価値観を持ち、生き方も違う人たちが一つの音楽を奏で、聴くことを通じてよこごびを共有できる。音楽にはそのような力があると思っています。

東北地方の復興にはまだまだ時間がかかると思いますが、その復興の一つの姿として、このような力を持っている音楽を誰もが身近に楽しめ、音楽を通じて人々が元気に、そしてにぎわう街となることを心から願っています。

楽都・仙台に復興祈念『2000席規模の音楽ホール』を! 市民会議

(呼びかけ団体:宮城県吹奏楽連盟 宮城県合唱連盟 仙台オペラ協会 音楽の力による復興センター・東北)

事務局: (公財)音楽の力による復興センター・東北 内

〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-3-9

TEL・FAX 022-224-0545

E-mail hall-2000@ongaku-fukko-tohoku.jp

ホームページ <http://sendai-2000hall.com>

みんなが胸に描くのは、“音楽ホールをこえる音楽ホール”でした。

音楽ホール建設のよびかけに「YES!」と応えた県民・市民が願うホールとは? ハガキでの賛同者は9000人以上。そのうち自由記述欄に思いをつづった1260人の声からは、東日本大震災などの経験から人々が持つに至ったホールのイメージと「ひろば」としてのカチが見えてきました。

● いい音を

まず、望むのは仙台の誇りになる響きのいい本格的な音楽ホール。すみずみまで音の響き渡るホールは、集った人たちに一体感をもたらしてくれるもの。舞台は、大編成のオーケストラや大きなセットの演劇もできる広さに。

● 気軽に

気やすく行ける。気軽に立ち寄れる。そんな自分の暮らしのすぐそばにある音楽ホールであってほしい。もちろん、ふらりと立ち寄りたり、誰かとおしゃべりするために使えてもいい。

● 集えて

演奏する人と聴く人をつないでくれる場。そして、一生懸命練習した合唱や吹奏楽、お稽古の発表の場。音楽のまわりにみんなが集えば、何より楽しい。交流の中から、新しい出会いや風景が生まれてくるはず。

● 誰もが

おとなにも子どもにも、障害のある人にもお年寄りにも。この街に暮らす人だけでなく、この街を訪れる人にも。誰にとっても開かれているホール。それがいちばん大切。これからの社会に向けて一歩先のバリアフリーをかかなる音楽ホールがいいな。

● いろんな音楽を

ジャンルの垣根を楽々と飛び越えてさまざまな音楽を楽しみたい。クラシックもロックもジャズも、そしてバレエも演劇も歌舞伎も邦楽も。聴くだけでなく、気軽に参加できるワークショップやコラボがいつも開催されていたら、もっと楽しい。

● 音楽の力で

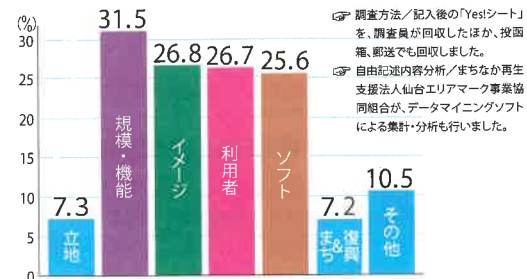
音楽はきびしさに直面する人の気持ちをやわしてくれるもの。そして、一歩前に踏み出す力をくれるもの。東日本大震災でみんなが実感した音楽の力を、これからも街づくりに生かしたい。復興半ばの人々をもっと元気にするために。

音楽ホール建設を呼びかけた「おたまじゃくしプロジェクト」とは

「楽都・仙台に復興祈念『2000席規模の音楽ホール』を! 市民会議」では、2016年9月からホール建設の賛同を募るハガキ(「Yes!シート」)を用意して、県民・市民への呼びかけを強化してきました。それが「おたまじゃくしプロジェクト」です。その結果、賛同登録者数は9000名を超えるまでに。また、ホールのイメージや機能について自由記述欄に意見を綴ったハガキは、1260通にも及びました。

寄せられた自由記述を集計、分析しました

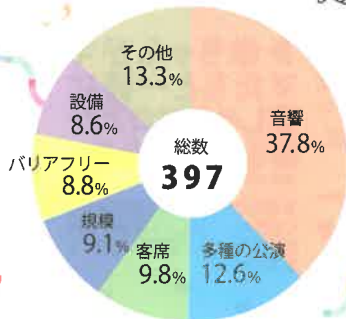
1260名の方の自由記述総数は、複数回答もあるため1708に及びます。それらのご意見をテーマごとに7つに分類しました。最も多かったのが「規模・機能」などで31.5%。次に「ホールのイメージ」「想定される利用者」「ソフト事業内容」が、いずれも25~26%台で並んでいます。ホールを望む市民は、規模や機能をはじめ具体的なホールイメージを持っていることが読み取れました。



▶音楽ホールについての自由記述——その傾向と分析

分析1 機能

響きのよさが、いちばん



まず望むのは、音響がいいこと

もっとも多かった意見は、音響について。40%近い人が、音響のよいホールを望んでいました。いい音に心ゆくまで酔いしれたい——そんな願いが見えてきます。「どの席もS席並みに」「後ろや端までよく響く」など、具体的な記述が多いのは、いま仙台にあるホールの課題を逆に指摘しているかのようです。

ジャンルを超えた いろいろな公演

音楽ホールという「クラシックファンのもの」と思われがちですが、いやいや、望まれているのは多様な公演ができるホール。もちろん大編成のオーケストラやオペラ上演ができる大ホールを望む声はあるものの、それだけにとどまれません。歌舞伎や能、合唱、ミュージカル、ロック、ジャズ、そして演劇まで、幅広いジャンルの公演を可能にするホールが待ち望まれています。

もちろん、 誰にでもやさしいバリアフリー

座席はゆったり、ゆどりの設計。お年寄りも、障害のある人も、お子さんといっしょのおかあさんも、無理なく安心して利用できるようバリアフリーに。そうした声は20%近くに及びます。そして、女子トイレの数の確保についても要望が。音楽を楽しむためには、建物の機能も大切。時代に一歩先んじた人によさしいホールを思い描いているようです。

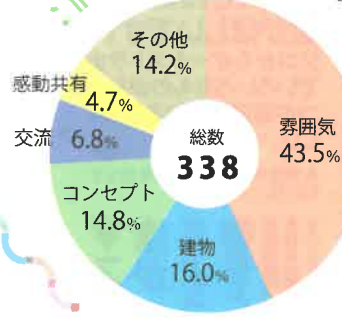
Topic

緑の散策路も、カフェも

音楽を聴く、もちろんそれが音楽ホールに求められることですが、自由におしゃべりしたりくつろいだりできる機能を求める声も多数ありました。緑豊かな散策路を歩いたり、カフェでおいしいコーヒーを楽しんだり。憩いと交流のための機能も期待されています。

分析2 イメージ

誰もが、音楽に集う



身近に感じて、気軽に行ける

ホールに求めるイメージは、何より身近に感じて、だれもが気軽に行けること。親しみを持って、みんなが集えること。実に40%をこえる県民・市民がそう願っています。音楽は速くにあるのではなく、生活の中にも楽しむものとしてあることを知っているからでしょう。ふだん実感している音楽のもたらす幸福感やよさを感じ、そのままホールイメージに求めているようです。

木が基調の あたたかみのあるデザインで

杜の都仙台の顔として考えているからでしょう。建物のイメージは、木を基調にしたウッディなたたずまいで、温もりが感じられるステキなもの。街に立つ建物の雰囲気にも、仙台らしさを意識する市民の思いが見えてくるようです。

楽都仙台の誇り、 東北を代表するホールに

ホールのコンセプトとして描くのは、楽都仙台の顔として東北を代表し世界にも誇れるホール像。「私たちの街には、こんなステキなホールがあるよ」と、一人ひとりが自慢し大切に思う、そんな願いを抱いているようです。ホールを中心に仙台を音楽の聖地に、という夢も感じられます。

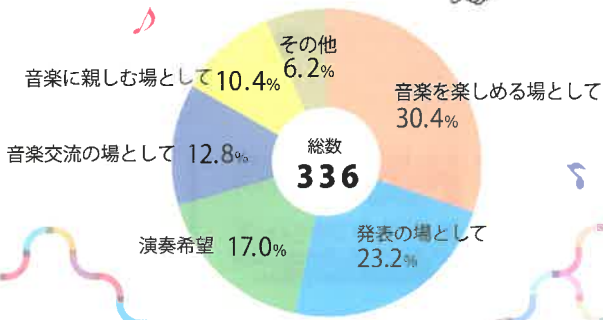
Topic

ホールにはパイプオルガン!?

パイプオルガンの設置を求める記述が多数ありましたが、本格的音楽ホールに必ず備えられているとは限りません。ミッション系の学校の多い仙台では礼拝堂に設置されているため身近な存在で、その演奏に接する機会が多いことも理由かもしれません。

分析3 利用者

音楽の主役は、私たち



誰もが集い楽しめる場に

誰もが集い音楽に親しむことができる場としてホールをとらえる割合は、30%を超えています。機能にバリアフリーを望む人々は、利用者像についても、年代や障害のあることなどにとらわれず、幅広い層が楽しめる場であることを望んでいるのです。あらゆる人に開かれているホール。それは音楽の持つ豊かさを実現していく場ともいえます。

自分が歌い、ステージに立つ

音楽を享受するだけではなく。実に40%を超える県民・市民が、学校の音楽活動、合唱やお稽古の発表の場として音楽ホールの活用を考え、そのうちの17%は、自分自身が演奏したいと記述しています。みずからが主役になる中から、活用の主体になろうと人々が生まれてくるかもしれません。

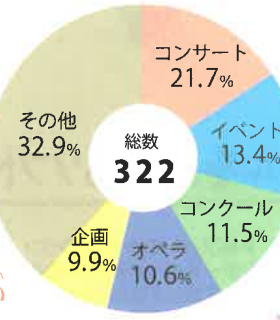
Topic

バックヤードの充実を

プロ、アマを問わず音楽にかかわる県民、市民から寄せられた声が多かっただけに、要望として練習やリハーサル室、楽器搬入口など、音楽活動を支える設備の充実を求める記述もありました。

分析4 ソフト

多彩なコンサートを、身近に



季節を楽しむコンサートの開催を

音楽ホールでの催しは、やはり音響のよさを活かしたコンサートへの期待が大。海外有名オーケストラやオペラの上演を望む声があります。一方で「第九」の合唱など県民・市民の参加性のあるプログラムへの期待も高くなっています。「ニューイヤークンサート」「ゴスペルコンサート」などの記載からは、仙台の季節を彩るコンサートの定期開催へのニーズも読み取れます。

全国規模の音楽祭やコンクール

合唱コンクール、吹奏楽コンクールなど、全国規模の大会の開催を望む声も11%に上りました。政令指定都市でありながら、こうした全国大会を開けるホールがない仙台の現状を踏まえた記述にとらえることができそうです。音楽活動をしている中で日々感じている生の声です。

お祭りのイベントも

有名な芸能人、さまざまなアーティストによるライブコンサート、コーラスの祭典、音楽フェスティバルなどを望む声もあります。日常生活にアクセントをつける祝祭的な催しへの期待といえそうです。

Topic

思いは絵文字で表現

自由記述欄には、音符記号(♪、♫)や絵文字(🎵、🎶)がたくさんありました。言葉にならない思いを表現したのかもかもしれません。絵文字を多用する若い世代の期待の表れでもあるようです。